

# 創作オペレッタ活動の教育的効果について

## —集団歯科保健指導における媒体作りから—

### On Educational Effects in Activity of Creative Operetta

— From Making Media in the Guidance of Dental Care for Groups —

北 村 恵 子

Keiko Kitamura

#### 要 旨

創作オペレッタの活動は、音楽のみならず他分野の要素を巧みに組み入れることによって、教育に柔軟な広がりや適度な刺激による相互作用による高まり合いが生まれ、単一教科だけでは得難い総合的な教育効果が期待できる存在であることは、過去に筆者が関わった多くの実践例からも明らかになっている。今論文は、歯科衛生士学科における保育園での集団歯科保健指導実習での創作オペレッタ作りにおいて、目的を一にした専門科目「保健指導」と一般教育科目「音楽」との合同で行った授業の試みを、理論と実践の双方からまとめたものである。その結果、両者それぞれに高い教育的効果が得られ、創作オペレッタの活動が、教育の分野における包括的機能の有効性を証明するものとして評価されるべきものであることが分かった。

キーワード：創作オペレッタ・音楽教育・歯科保健指導

#### I. はじめに

長野県公衆衛生専門学校は、1年制の保健婦学科と2年制の歯科衛生士学科の2科を持つ県立の専門学校である。保健婦学科には、看護専門学校の3年を終了した後に保健師資格と養護教諭資格を1年間で取得したい者が入学してくる。また、歯科衛生士学科は、高等学校を卒業後歯科衛生士資格を2年間で取得するために入学してくる。そこでの「音楽」の授業はカリキュラム上一般教育の科目として位置するが、筆者が非常勤として両科の「音楽」の授業に関わるようになってから既に長い年月が経過した。その間、授業内容に多少の変化はあったものの、基本的には両科共に創作オペレッタをずっとそのベースに据えて構成してきた。当初のほんの短期間には、一般的に義務教育や高等学校で行われていたような、いわゆる歌うこと・聴くことを中心とした「音楽」の授業内容を組んでいたこともあったが、「音楽」の授業が単なるストレス発散や息抜きとしての存在になるのではなく、この学校の専門的な内容を深めるこ

とと何らかの繋がりを持たせる活動にしたいという考えから、創作オペレッタを導入した経緯がある。

今回は、両科のうち特に歯科衛生士学科の専門の授業内容と連動した「音楽」の授業について、保育園への集団歯科保健指導実習のための媒体作りとして実施した創作オペレッタの活動を取り上げて論じてみたい。

## Ⅱ. カリキュラム上の「音楽」の位置付け

歯科衛生士学科は前述の通り、高等学校卒業後2年間の在学で歯科衛生士の資格を取得することができる。また、基礎科目と専門科目のうち、筆者の担当する「音楽」は、心理学・社会学・生物学・化学・英語等と同列の基礎科目に属し、2年生の前期に組み込まれている。専門科目には、歯科衛生士概論を始め歯科に直接間接に深く関わる様々な科目が並べられ、かなりハードな内容になっているようだ。授業では学生は専門科目が続く毎日を過ごし、基礎科目はどちらかといえば楽しい授業とさえ考えられている。ことに「音楽」は、1年生の前期に2年生との合同授業として1コマが設定されているとはいうものの、2年生の前期に12コマが集中的に組まれており、それを大変楽しみに待っていてくれるようだ。実施時期は4月から6月の3ヶ月間で、1コマだけの時や2コマ続きであったり、また、週に1回であったり2回であったりと不定期なものである。

## Ⅲ. 創作オペレッタ導入の経緯

さて、ここでの「音楽」は基礎科目に位置付けられている。しかしそれは勿論、音楽を学びそれを生かして資格を取ることではなく、あくまでも一般教養としての範疇の学習が求められている。一般的に、専門的な資格に直接必要ではない「音楽」を、保健衛生看護関係の専門学校等で授業に組み込んでいる所はあまり多くないといえるかもしれない。また、例えば「音楽」を組み込んでいる学校があったとしても、その狙いはどうやら日頃の専門的な勉強の合間のストレス解消の時間という意味合いが大きいのではないかと考えられる節がある。少なくとも音楽能力やその技術を伸ばすことを切実に望んでいるとはいえない。事実、音楽は日頃の専門の勉強内容とは異質な要素が大きく、ストレス解消の手段として有効であり、ある種音楽療法的な存在になっているとも考えられる。

このような状況下で「音楽」を教える立場に立った時、筆者は教師が主導して学生たちを癒すという、ストレス解消だけの授業にしたいはなかった。そこで実践したのが創作オペレッタの活動である。ここでの創作オペレッタ作りの詳細とその効果についてはⅣ.で述べるが、この活動は学生が主体的に動かないとできず、また、題材によっては日頃の学習内容や人間教育としての意味合いを深めることも可能であり、様々な要素を包含できる総合的な活動となった。勿論、通常のストレス解消のための音楽効果も大切であり、その要素を必ず組み入れてそれにも対応した。また、数年前までは保健婦学科でも同様の考えで創作オペレッタの授業を行っており、歯科衛生士学科との交流の意味を含めて一緒に校内だけの発表会を実施し、その教育的

効果を実感してはいた。しかしそれも、それぞれの学科のニーズの変化に対応して授業の形を変えることになったため、歯科衛生士学科独自の「音楽」授業の中身の構築をする必要があった。

さて、歯科衛生士学科では、以前から近くの保育園と提携し、「保健指導」の授業の一環として園児に対して集団歯科保健指導実習を行っており、2年生の6月にそれが行われていた。それはちょうど「音楽」の授業終了時期と重なっており、双方の目的が合致したため、「音楽」と「保健指導」との共同授業が出現した。それまでは、「保健指導」で園児対象の歯科指導の媒体としてペープサートや寸劇が行われていたということだが、それをさらに充実させる方策として「音楽」で取り扱う創作オペレッタの包括性を利用し、「保健指導」と「音楽」それぞれの教育目的を保育園児のための媒体作りの中に位置付けようとしたものである。これは学生・保育園児双方にとり有効に機能し、また、「音楽」「保健指導」の双方の授業でも望ましい結果を生むこととなった。なぜならば、音楽知識の少ない「保健指導」担当者と保健指導の知識の少ない「音楽」担当者のドッキングで、それぞれの内容の深まりが可能になったからである。

#### Ⅳ. 集団歯科保健指導実習における媒体作りの実際とその効果

「保健指導」は1年の前期に13コマ、後期に20コマ、2年前期に40コマが設定されているが、そのうち、今回の活動のためには2年前期の2コマを当てている。「音楽」の総コマ数は12コマであるが、そのうち1コマは保育園での発表である。最初の1コマは、1年生と2年生の合同授業のため、創作オペレッタについては触れないので、実質の創作オペレッタ作りに当てたのは10コマである。したがって、この活動の準備に使用した総コマ数は「音楽」が10、「保健指導」が2の、合計12である。なお、この授業を受けるのは2年生21人である。

まず初めに、長野県公衆衛生専門学校歯科衛生士学科で計画した下記の保育園集団歯科保健指導実習要項について紹介したい。

1. 目的……集団歯科保健指導の実際を学ぶ。
2. 目標……①音楽表現を取り入れた媒体の作成を学ぶ。  
②幼児への対応を学ぶ。  
③個人へのブラッシング指導法を確認する。
3. 実施施設……T保育園（長野市）
4. 対象者……年少以上の園児  
4歳児（もも組）12名、5歳児（きく組）12名、6歳児（ゆり組）18名
5. 実習日程と内容
  - (1) 事前見学 平成14年5月24日（金）  
AM 9：10………学校発  
9：20～10：00………園児との交流  
10：00～10：30………保育室での園児の様子を見学

10:40~12:00……学校にて実習教案作成

(2) 実習準備

「音楽」10コマ…4/26の4限, 5/10の4限, 5/17の4限, 5/24の3限, 4限,  
6/7の1限, 2限, 6/14の3限, 4限, 6/21の1限

「保健指導」2コマ…6/20の3限, 4限

(3) 集団指導実習 平成14年6月21日(金)

AM 8:50~9:50……学校で準備

10:00……学校発

10:05~10:20……保育園で準備

10:20~11:00……クラス毎の集団指導および個人へのブラッシング指導

11:05~12:00……学校にて実習のまとめ

6. 内容 集団指導および個人へのブラッシング指導

7. 準備品

園児……歯ブラシ, コップ, タオル

学生……歯ブラシ(自分用, あげる物), 手鏡, エプロン, ネーム, 実習用パンツ

グループ…媒体, 指示棒, 染め出し液, 綿棒, アルミカップ, ゴミ袋, ペーパータオル,  
ウェットティッシュ

8. 諸注意

(1) 挨拶, 言葉遣い, 身嗜み等のマナーに留意する

(2) 必要に応じて園の先生の助言を受ける

(3) 記録・お手紙は6/24日の朝提出する(お手紙は鉛筆書き)

(4) 学校で実習用パンツに着替える(エプロンの下は白っぽいもの)

\*なお, 8の(3)のお手紙は発表後園児宛てに出すものである。

以上は, 学校側の実施計画要項であったが, 次に集団歯科保健指導実習の媒体作りの実際について, 主に「音楽」の授業の視点から順を追って述べてみたい。

特に目的について, 上記1. 2. の記述の他に「音楽」の視点を加えてまとめてみると次のようになる。

①目的

集団歯科保健指導実習において, 保育園児の発達年齢に配慮しつつ「保健指導」と「音楽」のそれぞれの目的が達成できること。

☆「保健指導」……集団歯科保健指導の実際を学ぶことにより, 1. 音楽表現を取り入れた媒体作成の実際を学ぶ。2. 幼児への対応を学ぶ。3. 個人へのブラッシング指導法を確認する。

☆「音楽」……創作オペレッタ作りの実際を学ぶことにより, 1. 音楽と他分野の芸術との関わりを通して劇形態の中での音楽を意識的に使用する。2. 集団歯科保健指導の媒体として創作オペレッタが対象者にどのような影響をおよぼすのか等を理解する。3. 自己の音楽に対

する関わり方について認識を持つ。4. 仲間との共同作業を通してグループ活動の良さを実感し、適切なコミュニケーション能力を伸長し、自他の認め合い等を通して人間的な深まりを体験する。5. 相手に自分たちの意志を伝えるための表現力を伸長する。

## ②創作手順と経過

「音楽」授業では創作オペレッタだけをやっている訳ではないが、ここではそれに絞って第1回目から12回目までを順に記述することにした。

◎第1回目………4月26日（金）PM 2：40～4：10

創作オペレッタ実施の説明（目的・対象・時期・内容等について）とグループ分け。

(ア) 創作オペレッタとは何か、発表日はいつか、対象の3、4、5歳児の各発達段階についての説明等をし、実施目的について詳しく説明する。

(イ) 各対象年齢毎に作品を一つ創作するので、そのグループ作りをする。

(ウ) グループ毎に責任者・副責任者を決める。

(エ) 年齢に合致しそうな媒体テーマの候補をいくつかあげる。

○この段階で、学生の希望により年少組担当5人、年中組担当8人、年長組担当8人の三つのグループ分けとなった。

※この後5月1日（水）に、テーマの取り上げ方や内容の適否について、「保健指導」担当者が授業で歯科に関する専門分野から指導をした。

◎第2回目………5月10日（金）PM 2：40～4：10

幼児の発達段階を考え、グループ毎のテーマについて検討を重ねる。

この段階では、年少組…「食べたらみがこう」、年長組…「6歳臼歯」の内容で童話“赤ずきんちゃん”のストーリーの流れを使用することに方向が決まったが、年中組グループは未決定であった。

◎第3回目………5月17日（金）PM 2：40～4：10

発達段階に添ったテーマの検討とストーリーの大筋を決める。

なるべくメリハリのあるストーリーになるよう工夫することを助言した結果、発達段階を考慮すると幼児の知っているストーリーを取り上げる方がよいということになり、年少組は“白雪姫”，年中組は“三匹の子豚”，年長組は“赤ずきんちゃん”の話の大筋に添い工夫することになった。

※5月24日（金）のAM 9：10～12：00までの保育園事前見学において、幼児はどんな歌を好み、どんな話が理解できるか等、自分が担当する年齢の幼児の実態をよく把握してくるようアドバイスをする。

◎第4回目………5月24日（金）PM 1：40～2：30

◎第5回目………5月24日（金）PM 2：40～4：10

2コマ続きで大まかな脚本作りとメリハリを考えたストーリーの詰めをする。また、可能な部分からセリフのやり取りを考える。その際、日常会話のような自然な応答になるように心掛けるよう助言する。脚本の中で音楽を使用すると効果的な部分を上げ、可能な箇所から歌詞作

りやメロディー作り等を開始する。また、部分的に動きを確認しながら、セリフのやり取り等の妥当性について修正を加え確認する。この段階で、年中組は前回の候補に上げた“三匹の子豚”をやめ、“ドラえもん と 歯みがき”というテーマに決定した。

◎第6回目……………6月7日（金）AM8：50～10：30

◎第7回目……………6月7日（金）AM10：40～12：00

2コマ続きで、グループ毎に前回までの脚本等の内容の推敲を重ねる。この段階では歌や曲のアイデアを出し合い、歌詞やメロディー作り・伴奏・音響効果等の工夫を始める。

また、登場人物に合う小道具や衣装作りの案を考える。作曲に当たっては、幼児が口づさみ易いメロディー作りを心掛けるよう指導した。なおこの活動では、マスコミで流れる漫画のキャラクターも登場するが、使用するメロディーはなるべくオリジナルなものを作曲することにし、よく有り勝ちな替え歌等にならないことを条件とした。

◎第8回目……………6月14日（金）PM1：40～2：30

◎第9回目……………6月14日（金）PM2：40～4：10

2コマ続きで、グループ毎に前回までの脚本や音楽等の推敲をし、加えて、実際に保育園で発表する時の場所や環境設定を考慮し、大道具・小道具作りを開始する。衣装はなるべく自分たちのやり繰りの範囲でできる程度のものを使うことを前提とした。また、今までの自分たちのグループの作成内容を確認するために、希望グループには立ち稽古をビデオで撮影し、それを見ることによってこの段階で一度客観的に振り返る時間を取った。ここでビデオ撮影が可能だったのは年中組の1グループだけであった。他の2グループは全体の流れが未だ確定しておらず、発表内容や表現方法の妥当性を求めて話し合いを継続した。この2グループについては、「保健指導」担当者が後日放課後にビデオ撮影を実施し、振り返りの時間を持った。なお照明については、通常の保育室環境を変えずにそのまま前の方で演じるという発表形態になるため、今回はまったく使用せず、計画から除外している。この段階で最終的にグループの題名が決定し、年少組は「白雪姫は歯が命」、年中組は「のび太くんと歯ミガキ」、年長組は「赤ずきんちゃんの大人の歯」となった。

◎第10回目……………6月20日（金）PM1：00～2：30

◎第11回目……………6月20日（金）PM2：40～4：10

この2コマで、今までの練習成果の確認と微調整、および、当日を予想したりハーサルを繰り返した。ここでは対象が目の前にいないので、園児との言葉掛けのやり取りを予想して演技を試みた。

◎第12回目……………6月21日（金）AM9：00～10：30

保育園まで5分の近さなので、発表の前に学校で確認のリハーサルを1回行った。本番を予想して各グループ毎の発表をチェックし、自分たちの表現したい内容が保育園児に伝達できるかどうかの最終調整をし、劇全体に関するバランスについて最終確認をした。その後、保育園に行き、自分たちの発表する場の設定と、その後の歯科集団指導の準備をした。なおその間、園児は園庭で遊んでいて保育室にはいなかったが、この設定場所でリハーサルすることは時間

的に不可能であることが計画段階から分かっていたため、準備終了後、園児が集合するのを待って発表に臨んだ。

### ③発表

発表は6月21日（金）AM10:20頃から、T保育園の各保育室において実施された。発表はすべて保育室の前寄りで行われるため、園児と保育士は後ろ寄りの位置で椅子に座り観劇した。園児は観劇の最中でもその場ですぐ劇に反応して感想を述べるので、学生はそれに対応しながら劇が進められた。発表終了後、発表に使用した道具類を簡単に片付け、園児に話し掛けながら直ぐに歯科集団指導や個別ブラッシング指導に入った。また、終了後学校に戻り、簡単な感想を全員が述べ合った後に全て終了した。引率したのは「音楽」「保健指導」の両科目担当者2名である。また、校長・教頭・事務官も参加し、ビデオや写真撮影を担当して発表の記録をした。

ここで、年少組・年中組・年長組グループそれぞれの作品の粗筋を紹介したい。また、音楽や歌が効果的に入る部分についても説明したい所だが、枚数の関係で省略することにする。

#### (ア) 年少組（12名）……題名「白雪姫は歯が命」 約9分の作品

昔々ある国では、歯が綺麗な人が一番綺麗といわれていた。お城に住んでいるお后は白雪姫の本当の母親ではない。お后はいつも歯磨きを早く終わらせて寝てしまうが、白雪姫は丁寧に磨いてから寝る。ある時、お后は鏡に「鏡よ鏡。この世で一番綺麗なのは誰？」と聞くと、「貴女は毎日磨いているけれど虫歯が一本あるから、虫歯が一本もない白雪姫が一番綺麗」という。それを聞いて怒ったお后は、家来に命じて白雪姫を森に捨ててくるように命じた。家来は可愛そうに思って「この先の小屋に食べ物と歯ブラシがあるから、そこで暮らして下さい」と告げた。仕方なく白雪姫はそこで暮らすことにした。暫くしてお后は再度鏡に「鏡よ鏡。この世で一番綺麗なのは誰？」と聞くと、「それは、森の小屋で毎日歯を磨いている白雪姫です」と答えた。怒ったお后はお婆さんに変身して砂糖たっぷりのケーキを白雪姫に食べさせ、歯ブラシを盗んでしまった。歯ブラシがなくなった白雪姫が悲しんでいると、通りがかった王子様が歯ブラシをくれた。「白雪姫の歯はなんて綺麗なんだ！」と喜んだ王子様は、白雪姫と結婚し幸せに暮らした。

#### (イ) 年中組（17名）……題名「のび太くんと歯ミガキ」 約10分の作品

ジャイアンとスネ夫がのび太くんを野球に誘うと、歯が痛いから駄目と断られた。口の中を見るとすごく汚くて、一緒にいたしずかちゃんにも嫌われてしまった。ドラえもん相談して、ミニドラに虫歯を治して貰ったが、それでも歯磨きをしないのび太くんはドラえもんに諭される。そこで、ドラえもんが皆の未来の口の中を見せてくれることになった。しずかちゃん、スネ夫はとても綺麗。ジャイアンも母親にうるさく注意されているのでこれも綺麗。のび太くんの口の中を覗くとバイキンが右往左往して喜んでいる。それを見て歯磨きをする気になったのび太くんは、磨き方が分からなかったの、歯磨きお姉さんと呼んで貰い“歯磨きの歌”で指導を受け綺麗な歯になる。再びジャイアン、スネ夫、しずかちゃんが来て、なぜそんなに歯が綺麗になったか尋ねたので、歯磨きお姉さんの歌を教え、皆で一緒に歌う。

(ウ) 年長組(18名)……題名「赤ずきんちゃんの大人の歯」 約10分の作品

森で、赤ずきんちゃんと歯磨き大嫌いな狼と仲良く遊んでいたが、歯医者さんごっこをすることになった。狼が歯医者さん役で、通りがかった兎が歯科衛生士役になり、最近歯がぐらぐらする赤ずきんちゃんの歯を見ることになった。よく見えないので兎が魔法で口の中を大きくし、狼歯医者さんがいじっていると、赤ずきんちゃんの歯がポロッと取れてしまった。慌ててくっ付けても付かない。自分のせいで歯を取ってしまったと思い込んだ狼は、自分の歯もそうなるのか心配になった。家に帰った赤ずきんちゃんは歯が取れたことを母親に伝え、子供の歯が大人の歯に生え変わることを教えてくれた。兎が呼んできた歯科衛生士が、人間だけではなく狼も歯が抜け変わるチャンスを神様に一度だけ与えられていることを説明し、子供の歯も大切にする様に話す。そこへお婆さんが来て、80才になっても自分の歯が20本あり元気なのは、好き嫌いせず何でもよく噛んで食べ、歯磨きもきちんとしていたことを話す。そこで、赤ずきんちゃんは嫌いな魚を、兎も嫌いなピーマンを食べることを、狼は嫌いな歯磨きをすることを決心し、皆で頑張ることになった。

④学生の反応および効果

当日発表終了後に、学生全員が口頭で感想を述べ合ったが、概ね成功だったとの実感を持ったようだ。特に、幼児の発達段階について勉強したはずだったが、子供たちの予想通りの反応や意外な言葉や態度の反応に戸惑ったこと、素直な反応に感動したこと等を多くの学生が述べていたのが印象的であった。大方の感想からは、学生たちがいかに真剣にこの活動に取り組み、また、子供たちの反応を目の前で直に体験した喜びがいかに大きかったかを明確に読み取ることができた。

さて次に、後日課したレポートの中から、学生たちの感想の主なポイントをまとめてみた。

まず第一に、全員の学生が記述したのは、グループ活動の意義についてである。仲間と協力して一つの目標に向け心を合わせ頑張る喜びや、共に協力し合って達成したことによる満足感・充実感、様々な意見交換の中から生まれる個性の認め合いや、ディスカッションを重ねてお互いに高まり合いながら何かを作り出す喜びを感じたとか、困難や戸惑いを共に乗り越えた喜び等を上げた者が多かった。初めはやりたくないと思った活動でも、仲間の意外な発想力や様々な能力に刺激されて、いつの間にか真剣にのめり込んで活動できたという者も多い。また、リーダーシップの取れない責任者が、どうすればいいかを仲間の姿を冷静に観察することによってその手法を会得したり、他班の活動や作品に刺激されて頑張れた等、沢山のプラスの記述が見られた。

第二には、子供たちの発達段階の理解と真剣で素直な生の反応に対する感動体験が上げられる。学生の発表に対して子供たちは本当に集中した観劇態度であったこと、こちらが発達段階を考慮して作った作品に対して、予想通りの反応や予想に反した反応もあったが、その素直で純真な姿に出会って感動したというものである。それが、自分たちのこの活動への真剣さを問い正すことにも繋がったようだ。子供たちの期待感や熱い視線を感じつつ演じたことにより、発表内容に深さの必要なことや、相手にしっかりとメッセージを伝達するための表現方法の工



夫の大切なことや、こちらの都合に合わせて意味のない空想や嘘を交えたり安易に子供に迎合したりする恥ずかしさ等を実感し、手を抜いてはいけないことを勉強したと述べている。子供が目の前にいることで、発表が真剣勝負の場であることを身を持って理解できたのである。中でも真剣に専門の歯科に対する深い掘り下げをし、それを作品作りに生かしたことは特筆に値しよう。

第三には、表現力の伸長が上げられる。子供対象の表現方法についての工夫はしたつもりでも、人前での自己表現の不得意な者が、子供の反応に誘引されて自然な語り掛けを導き出されたり、歌ったり体全体で演技する表現の難しさも恥ずかしさを払拭した階段から楽しくなるという体験をした喜び等が、やればできるという自信と共に大きな成長の源となったようである。さらに、当初持っていた自分が演ずる役割への戸惑いや不安も、その内面を深く掘り下げ表現方法を工夫することで解消し、演ずることが心地好くなる等の効果があったものと思われる。また、作曲や音楽作り、歌唱やその他の音楽表現に関しても、難しかったがやってみれば案外上手にでき、子供たちにスムーズに受け入れられたという実感も得たようだ。そして、表現に当たっては対象者の目を見てコミュニケーションを取る大切さに気付く等、今後の表現活動に対する基本姿勢も養えたものと考えられる。

第四には、表現の媒体としての音楽の存在が子供たちに与える影響力について上げられる。歌や音楽がドラマのメリハリを作り、伝達したい内容を対象者に深くインプットする魔力を持つことに気が付いたのである。創作オペレッタ作りは初めて体験したという者がほとんどであったが、子供たちにテーマを理解して貰うためには、言葉だけで伝えるよりは劇形態を取り、かつ歌や音楽に乗せてメッセージを伝達する創作オペレッタの方が媒体として素晴らしい効果を得られることを実感したようだ。

## V. アンケート調査による保育園児の反応とその効果

さて、保育園児はこの活動をどう受け止めたのだろうか。ここでは、保育園児の保護者の皆様に、この活動について園児が家の人に話してくれた様子等をアンケート調査したので、特にオペレッタに関する部分を取り上げ、それを元に反応やその効果について分析を試みたい。

T保育園の年少児12人、年中児17人、年長児18人の保護者に依頼したアンケートは、回収率が年少児9人(75%)、年中児8人(約47%)、年長児12人(約67%)であった。園児数が少ない小規模園ではあるが、近いということもあり、また、日頃から某かの交流があるので、集団歯科保健指導も毎年ここで行われているということである。回収数が少ないのが気になるが、傾向を読み取ることは可能であると思われるので、数字を上げてみた。

この活動の当日の様子を家の人にどの様に話したかの質問では、年少児(話した…8人、話さない1人)、年中児(話した…7人、話さない1人)、年長児(話した…10人、話さない2人)で、かなりの園児が某かを話しているようである。その話しをしたもののうち、オペレッタについて話しているのは年中・年長児全員であるのに対して、年少児は8人のうち5人だけであり、後の3人はブラッシング指導についてのみ話している。

ここで、幼児たちが話した内容について保護者が記述したものの中から、枚数の関係で各年齢からそれぞれ2～3の代表例のみ紹介したい。

＊年少児

- ①「奇麗なお姉さんたちが白雪姫の劇をしてくれて、小人たちが歯磨きの競争をしていたら悪いお婆さんがきて、苺と塩を白雪姫にくれて“おいしい！”って食べたんだけど、歯ブラシが無かったから王子様のハブラシを借りてハブラシして良かったね」
- ②「お姉さんがきたの。それでおばちゃんが見てくれたの。ピンクにぬったの」

＊年中児

- ①「ドラえものの劇やって面白かったよ。のび太くんが虫歯で痛そうだったんだよ。でも良く磨いたら治ったんだよ」
- ②オペレッタはとても面白かったようで「すごーく面白かったよ。のび太くんは歯磨きをしっかりしていないので、バイキンが歯についた」との事。
- ③自分で歯磨きしている時に「♪上の歯もよく磨き～ 下の歯もよく磨き～♪」と歌っていた。(この歌は発表のために学生たちが作詞作曲したもの)

＊年長児

- ①「楽しかった?」「うんうん、おもしろいおもしろい。オオカミはねえ、赤ずきんちゃんの歯をとっちゃったんだよ。でも、ちゃんとお医者さんに治してもらったんだよ」
- ②「本当の赤ずきんちゃんの話と違って、歯を磨いてばかりいたよ」

これを見ると、年少児の中には①の様に部分的には異なるがストーリーの中の歯を磨くというテーマをほぼ理解できた子どももいたが(苺と塩はストーリーの中に出てこない)、②の様に誰かが来て何かをしたことは分かっても、どんな話だったのか理解できなかった子どももあり、発達の個人差の大きいことが分かる。年中児になると、①②の様に、意図したテーマの趣旨をほぼ理解している様子が分かる。さらに、劇中で歌われた曲をそのまま家でも歌ったという③の様な事例まであり、音楽の持つ力がいかに凄いかがよく分かる。年長児になるとテーマを理解すると共に、③の様に自分の知っている物語との比較をする批判力も出てくることが分かる。この様に、歯科保健指導の媒体としての創作オペレッタは、その機能を充分発揮したことが分かる。即ち、ストーリー、音楽、小道具、衣装、演技表現等の総合力で、こちらの意図したテーマが理解され、話題を共通することでその後の個人ブラッシング指導の場での子どもたちとのコミュニケーションがスムーズに取れたり、家の人にその話しをして家庭におけるブラッシング時の意識付けに繋がったりしているからである。また、劇中で数回しか聞かなかった歌を記憶し、家に帰っても繰り返し歌うという事例があった様に、歌は歯に対する生活習慣の定着にも益するものと考えられ、音楽の力をプラスすることで自然にテーマが浸透していくことが分かった。付言すれば、学生たちの作成したお面や小道具を全て保育園に寄贈した所、それを使ってその日から数日間、観劇した創作オペレッタを真似して“ごっこ”遊びが展開されたという。

## VI. まとめ

今まで述べてきたように、公衆衛生専門学校の歯科衛生士学科における保育園での集団歯科保健指導実習での創作オペレッタ作りにおいては、目的を一にした「音楽」と「保健指導」の合同授業が成立し、それぞれの効果を確認することができた。またこの活動は、前述のように教育的に見て学生にとっても保育園児にとっても、それぞれ好ましい結果を得ることができた。この様に、創作オペレッタの活動はあらゆる要素を抱え込む可能性が高いことから、教育の分野で今まで繋がりなかったもの同士を結び付ける包括的機能を充分期待できる存在であるといえよう。

さて、創作オペレッタの教育的効果についての分析は拙稿（注1）に譲るとして、今回歯科衛生士学科の専門科目と「音楽」授業の結び付きで可能になった保育園での歯科集団保健指導実習の実践は、創作オペレッタの包括性を証明するものとして評価されるべきものであることが分かった。過去に筆者の関わった実践例には、幼児教育学科の学生の作品や看護専門学校の学生の作品、および保健婦学科の学生の作品（注2）、さらには、現役の保健師たちのグループで完成させて全国大会で発表した作品（注3）、そして、地域の保健師が中心となり地元の保健補導員と短大の学生の参加を得て県大会で発表した作品（注4）、幼児の発想を汲み上げて保育士が創作し園児が演じた作品（注5）等があり、創作オペレッタの総合性や包括性を大いに発揮した作品が数多く出現している。

また、創作オペレッタは音楽を伴う劇形態を取る活動であり、音楽のみならず演劇としての教育的効果にも優れたものがあることも分かっており（注6）、今後、この方面との共同研究が密に行われることによって、さらなる教育効果が期待できるものと思われる。

以上のように、創作オペレッタの活動は、音楽のみならず他分野の要素を巧みに組み入れることによって、教育に柔軟な広がりや適度な相互作用による高まり合いが生まれ、単一教科では得られ難い総合的な教育効果が得られることが分かった。

今後、教育の分野において、創作オペレッタの包括性を利用した、より素晴らしい実践が増加することを心から期待するものである。

### 《注および参考文献》

（注1）創作オペレッタの有用性については、上田女子短期大学紀要7号 1984、9号 1986、14号 1991～20号 1997、22号 1999～24号 2001の拙稿に述べてあるので参照されたい

（注2）北村恵子：音楽表現の世界 樹芸書房 1994、上田女子短期大学紀要19号 1996を参照

（注3）上田女子短期大学紀要24号 2001を参照

（注4）上田女子短期大学紀要18号 1995を参照

（注5）上田女子短期大学紀要7号 1984、前掲書（注2）を参照

（注6）上田女子短期大学紀要7号 1984、14号 1991、16号 1993、21号 1998、上田女子短期大学児童文化研究所・所報23号 2001を参照

西澤昭男・内山澄孝・神原陸男・北村恵子・渡辺亜紀人：音楽教育における「不易」と「流行」教育芸術  
社 2002

桜林 仁：心をひらく音楽 音楽之友社 1990

松井紀和：音楽療法の手引き 牧野出版 1990